

印刷とARの融合など 枠にとらわれない 新しいスタイルを確立し、 「印刷の未来形」を提案



印刷業の枠にとらわれない提案をする



印刷工程の「見える化」を徹底



紙面にスマホをかざすと動画などの追加情報を得られるAR。この活用が印刷物の可能性を高める



導入システムのメリットを語る渡辺明秀専務

data ひしげん

代表者役職名・氏名／代表取締役社長・岩田吉光

設立年月日／昭和15年5月1日

住 所／〒490-1144

海部郡大治町西条松下75

電 話／052-444-2323

F A X／052-444-2636

U R L／http://www.hishigen.co.jp

E-Mail／soum@hishigen.co.jp

資 本 金／6400万円

業 種／印刷・製本、紙製品の企画・製造販売

ARが紙媒体を進化させる

インターネット社会の到来により、紙媒体の市場が縮小傾向にあることは否めない。とはいえ「自分で紙をめくる行為がないと、本や新聞を読んだ感じがしない」という根強い「紙派」の存在も一定数はある。新たな情報化時代に対応すべく印刷業界も新しいコンテンツの発掘や新業態への転換が迫られている。そんな中において、紙媒体ならではの存在価値を模索し、紙媒体とデジタルとの融合を提案するのが菱源だ。

同社はこれまでのオフセット印刷によるカタログ、チラシ、カレンダーなどはもちろんのこと、社内デザイナーが力を発揮するパッケージ・POP印刷、セキュリティデザインと付加価値印刷を組み合わせた偽造防止印刷、地球環境への負荷が小さいフレキシ印刷、ノベルティグッズとしてのペー

パークラフトなどを受注している。

また、紙面を見た人の「もっと知りたい」に対応するAR (Augmented Reality=紙面の指定された写真やコードにスマートフォンをかざすことで、動画などの追加情報を見ることができるシステム) プロモーションなど、印刷業の枠にとらわれない提案を続けている。

印刷工程の「見える化」徹底

こうした多角的な業務の確立に役買っているのが、「平成28年度補正革新的ものづくり・商業・サービス開発支援補助金」を活用して導入した「プリント・マネージメントシステム」だ。これにより、印刷工程の徹底した「見える化」が実現できた。受発注の管理、原価計算、進捗状況の確認など、印刷にかかわるすべての工程を一元的に管理できるようになった。

「これまで担当者が手書きで起こ

していた日報の作業がなくなるなど、業務の効率化が一気に進んだ。またすべての業務工程を社員全員で共有できることでさまざまなメリットが生まれている。営業マンが担当業務の進捗状況を訪問先や移動中でも、スマホで確認できるなど、顧客へのサービス向上につながっている」と語るのは同社の渡辺明秀専務だ。

このシステムの導入で、作業工程でのミスやロスが大幅に減ったことに加え、顧客からの見積もり要請にも、ごく短時間で対応できるようになった。

「印刷離れ」を食い止める

また、ARはカタログやPR誌などの誌面の記事や広告の中で、ARを利用した読者の居住地域が特定できたり、関心の傾向が分析できたりする。世の中のペーパーレス化へ柔軟に対応するとともに、印刷物の先にある貴重なデータを分析して顧客に

フィードバックすることで「印刷物離れ」を食い止めることにもつながると渡辺専務は意気込む。

同社では「今後、印刷データとデジタルをいかに連動させるかが重要と考えている。また、業務の効率化や工程の見える化が社内コミュニケーション不足を補い、情報共有を密にして、レギュラー業務の冊子などの発行部数の変更や細かな修正にも迅速に対応できるシステムを確立していきたい」（渡辺専務）としている。

新しいスタイルの顧客満足

導入したプリント・マネージメントシステムに関しては、毎月社内会議の場で問題点や課題について話し合ったり、社内勉強会を開催したりと、ブラッシュアップにも努めている。今後ウェブ上での校正システムの確立や美術書などの高精細な校正が

求められる出版物の受注を目指すなど、全社的な目標も定まりつつある。また納期短縮や営業の効率化にもさらに力を入れる予定だ。

「顧客にニーズに徹底的に寄り添ったビジネススタイルの確立で印刷物の枠にとらわれない新たな印刷業を目指していきたい」（同）。このように、紙媒体の生き残りを模索しつつ、紙にこだわらない新しいスタイルの顧客満足を目指す同社の取り組みに注目したい。



顧客の要望に答えてコンテンツが増える